

令和7年度 第2回ナセBA運営協議会議事録

1.開催日時

令和8年1月29日(木) 午後3時～午後4時30分

2.開催場所

ナセBA1階・体験学習室

3.出席者(6名出席)

(委員)

我妻 仁(会長)、西山 まなみ(副会長)、

高野浩男、佐藤 繁、細谷 信義、吉澤 恭子

(事務局)

曾根 伸之、渡部 洋己、設楽 由加利、高橋 修、遠藤 朋香、齊藤 かおり、福石 敏史、

宮澤 崇士、花田 美穂

4.開会

5.理事長挨拶

初めに、皆様ご承知の通り、財団の名誉会長でいらっしゃる上杉邦憲様が急逝された。邦憲様は長きにわたり本財団の2代名誉会長として大変お世話になり、ご指導ご支援を頂戴した。改めて、ここに感謝を申し上げるとともに、皆様とともに心よりご冥福をお祈り申し上げたい。

本日は、令和7年度の事業実施状況、次年度の事業計画についてご意見を頂戴したい。

今年は、ナセBA開館10周年ということで事業も計画されており、委員の皆様のご意見、アドバイスを頂戴して、今後の中長期的な計画にも繋げていければと考えている。市民の皆様のご暮らしの中にナセBAが一層活かされる文化施設となっていけるように、本日もどうぞよろしくお願いしたい。

6.会長挨拶

先日、八甲田山に暮らす人々の様子をテレビで見た。その中で、雪は辛いけれどやはり好きだというお話をされていた。ちょうどその頃米沢も雪がひどく、除雪にも辟易していたが、そのテレビを見て、このぐらいでへこたれてはいけないという気持ちになったところである。

最近静岡に住む大学時代の友人が遊びに来て、「米沢には素晴らしい図書館があるのを知っている。」と言っていた。どうして米沢の図書館を知っているのかと聞いたら、「自分が見た資料の中で、米沢の図書館では素晴らしいものを行っているということを見たことがある。」ということだった。静岡の人でも、米沢の図書館のことを知っている人がいたということにびっくりするとともに、米沢は自然も豊かで食べ物も美味しいが、それにプラスして素晴らしい図書館があるということも PR したいと改めて思ったところである。

今日は、今年度一年間の報告と来年度の計画について協議していくことになるわけだが、ぜひお一人お一人の立場でより良い図書館になるようなご意見を頂戴したいと思うので、最後までよろしくお願いしたい。

7.協議

(1)令和7年度事業実施状況について

事務局から資料に基づき説明。【資料 1】【資料 2-1】【資料 2-2】

【委員】

ナセ BA に来るとギャラリーの方へは行ったりするが、2 階の図書館については行かないことが多かったが、先日、謎解きラリーをやってみた。最初は、どう取り組めば良いのか分からなかったが、1 時間半ぐらいかかって解くことができ、クリアファイルをいただいた。謎解きラリーでは、図書館の隅々まで廻りいろいろなどを改めて知ったりすることができ、とても楽しかった。

そのとき、避難はしごの存在を初めて知った。不審者の侵入をはじめとした非常事態が起こった時、2 階からの避難経路としてこのハシゴも使ったりするのだろうか。また実際、訓練で使用したりすることはあるのか。

【事務局】

ナセBAでは年 2 回火災による避難訓練を実施している。直近の訓練は 11 月に図書館カウンター前閲覧席のモバイルバッテリーが発火したということを想定した避難訓練を実施した。今後も毎年実施していく計画である。避難はしごについては、最終的に避難経路が無くなった時に使うことを想定して設置しているものであると聞いている。そこまで最悪の事態にならないように、職員一同火災等には十分気を付けていきたい。

【委員】

事前にいただいた実施報告資料を読み、謎解きラリーに関してはとても面白い取組だと思った。184名の参加人数は素晴らしい。今回この資料を事前にいただいたことで、イベントの実施状況や参加者の感想が手に取るように分かって、とても良かった。

先ほども話があったが、謎解きラリーに参加してこれまで知らなかった図書館の隅々まで探検できたことは、参加者にとってとても大きな、素晴らしいプレゼントになったのではないかなと思う。謎解きラリーだけでなく、英語で遊ぼうや他の事業も含めて、いろいろなことをしていることが、手に取るように分かった。普段の図書館の業務以外に、さまざまな事業に頑張っている図書館の方々に感謝したい。

【委員】

いろいろ頑張っていてありがたい。貸出事業やワークショップ、関係展示やDMなど大変努力されて好評をいただいていることに感謝したい。今後も頑張っていていただきたいと思う。今年度のレファレンスの対応について、一般85件と郷土70件という数がでていますが、これは、例年に比べて、利用件数が多いのか少ないのか教えてほしい。

また、貴重資料の整理及びデジタル化の推進についてだいぶデジタル化が進んでいるようだが、今後どの程度アーカイブ化されていく予定なのか、またはどのような計画があるのかお聞きしたい。

【事務局】

レファレンスに関しては、郷土関係の70件は例年通りの件数といえる。

もう一つ指摘のあった貴重資料の整理とデジタル化の推進に関しては、現在未整理資料の目録化作成を同時並行で行っている。現時点ではまだ一般の方に公開できる状態に至っていないが、来年度中にはデータの整理を行って利用者の便に供したいと考えている。

【委員】

貸出冊数のように表に出ることはないものだが、最終的にはこういうものも米沢市の資料・財産としてきちんと整理されていくように力を入れていただき、良いものを残していただきたい。地道な仕事だが、力を入れて進めていただきたい。

また、郷土資料に対する情報の発信に関して、頻度の高いレファレンスについてパスファインダーの作成を1件行ったということだが、今回作られたのがどういったものなのか教えていただきたい。また、これからも作っていく予定があるのかどうか教えていただきたい。

【事務局】

今年度作成したパスファインダー1件は、置賜・米沢地方の方言に関してで、当館所蔵の参考資料や方言研究の歴史などをまとめたものである。これまでもパスファインダー作成に関しては、レファレンスの頻度が高い、先祖調べや市内の草木塔に関することなどを作成してきた。今後の作成テーマについては未定であるが、委員の方々の要望などもあれば参考にさせていただき制作を進めていきたい。

【委員】

大変な、かつ地道な作業だが、パスファインダーができると非常に有益に利用者の助けになるので、これからもよろしくお願ひしたい。

【委員】

小学校の視点から話をすると、それぞれの事業がワクワク・ドキドキするような試みがたくさんされていることを改めて感じた。説明にあった、「本のお楽しみ袋～どんな本が入っているのかな?～」 「なにを読もうかな? 図書館オリジナルガチャガチャ」について、とても興味深い。具体的にどんなイベントだったのか教えてほしい。

【事務局】

「図書館オリジナルガチャガチャ」のコーナーとは、トイカプセルに「こんな本を読むと、いいことがあるかも」といった内容のおみくじを入れている。そのおみくじから、本の会話に発展したり、次にこういう本を借りたりといった形で読書に結びつけるような、ちょっとしたお楽しみとなっている。

「本のお楽しみ袋」のコーナーについては、どんな本が入っているのかわからない状態で数冊の本を袋に入れて用意し、貸出を行っている。内容については、対象年齢を分け、かつテーマをいくつか決めている。図書館に来ると、本との楽しい出会いがあるということがわかるようなイベントにしている。

【委員】

説明を聞いただけでも、大人でも面白そうだ、行ってみたいと思ったところである。なぜ、こういった質問をさせてもらったかと言うと、先日、読書活動推進計画にかかわって、市内の小学校6年生と中学校3年生を対象に、読書に関するアンケート調査を行った。その結果、小学校の方はなかなか本を読んでないという子どもが多かったのだが、その理由の中に、読みたい本がないと答えた子どもたちの割合が、小学校で26%、中学校だと36%だった。理由

の中で一番割合が高い回答だった。読みたい本がないという子が約3割程度いる。これは私的には高いという印象を持ったところである。どんな本を手にとると面白いのかということや、大人が思っているいわゆる良書というものを、子どもたちに押しつけることなく興味を引き付けられるか、そういった仕掛けが、学校教育の中でも必要だと思った次第である。子どもたちの発達段階に応じて、その子の興味をそそるような示し方や紹介の仕方が大事だと思う。事業のタイトルを見ただけで大人も興味を惹いたので、子どもも本当に楽しんでこのイベントに参加されたのではないかと思った。良書と出会う仕掛けなどいろいろな手立てを工夫していかなければならない。学校でも図書館と似たような取組ができないかイメージを膨らませているところである。

(2)令和8年度事業計画(案)

事務局から資料に基づき説明。【資料3】【資料4】

【委員】

先ほど説明のあった市民ギャラリーの自主事業について、開催数を減らすということだったが、具体的に何を減らす予定か。

【事務局】

予算の都合上来年度の自主事業を減らすことになった。今のところ、春に実施していた展示会を廃止する予定である。

【委員】

米沢商工会議所との連携事業を考えているという説明だったが、実施時期と内容についてわかる範囲で教えていただきたい。

【事務局】

詳しい話し合いはこれからだが、時期的には今年の秋頃の開催を予定している。事業内容についてはまだ十分に詰まっていないので、今後商工会議所と打合せをしていきたいと考えている。いろいろ決まってくれば、機会をとらえて皆様にもお伝えしていきたいと考えているところである。

【委員】

芸術文化協会としても協力できることがあれば、ぜひ協力させていただき、文化芸術推進という形でも活用させていただければと思っているので、よろしく願いしたい。

また、令和8年度の読書感想画展について、いろいろ大変だと思うが継続していただけるということで、大変ありがたく思っている。ただ、少子化をはじめいろいろな問題があるが、そんな中で図書館の活用推進活動ともうまくリンクして、図書館利用や絵を描くための貸出冊数の増加、推薦図書のうち活用などに有機的に取り組めて行けないかと考えている。子どもたちのアート文化育成という意味でも、図書館の本来の仕組みを活性化させていただきたい。

【事務局】

大変心強いお話をいただきありがたい。ぜひ芸術文化協会の皆様と相談させていただきながら、今後いろいろと進めていきたいと思う。

【委員】

10周年記念事業として、子ども会議という言葉が出て来たので、そのことについて教えてほしい。当園でも子ども会議を取り入れており、毎週木曜日、年中以上の子どもたちがだいたい6、7人くらいのグループを作り、そこに先生一人が入ってテーマを一つ決めて、そのテーマについて思ったことをどんどん言ってみようという形で始めて、半年くらい経った。幼児なのではじめはなかなか言葉が出てこなかったが、だんだん慣れてくると、例えば、「今は冬なので、冬の中で何が好きですか」、「昨日見た夢を教えて」、「お腹の中にいたときに何が聞こえた」といった、子どもでしか答えられないような話題について続けていくうちに、子どもたちの言葉の数が増えて来た。子どもなりの表現の仕方で、自分の思いを伝えることができるようになって来たという、素晴らしい効果が子ども会議にはあると思う。ナセBAでなされる子ども会議では小学校2年生から6年生の児童が対象なので、どんな言葉が飛び出すのか、どんな思いが言葉になって広がっていくのかなどとても興味がある。もしこちらを開催される時に、どこかで公表していただけるのであれば、聞いてみたり文字で見たりしたいと思う。また、その子ども会議に参加した子どもたちの思いが、何か具体化するようなものがあれば教えてほしい。

【事務局】

ご要望は関係団体にもお伝えしていく。まだ手探りの状態だが、子ども会議で大事にしたことは、子どもたちがいろいろな場で自分の思いを表現できるようにしたいということ、ま

た、友達が話したことを聞くことで考えを共有できるようにしたいということであるので、委員からお話しいただいたこととつながるのでないかと思う。

【委員】

図書館だよりを隣組回覧にするなど検討していただくと、より多くの方々が興味を持ってイベント等に参加されるのではないかと思うがいかがか。

また、1階のオープンギャラリーで作品を展示しているが、小さいものがなくなるかと少々心配である。作品によってはケースに入っていないものも見られるので、オープンギャラリーや展示会場でも、高価な作品などはカバーをしておけないかと思う。そういった備品をもう少し増やしていただければと思うが。

【事務局】

現在、図書館だよりは、コミセンや学校など公共施設に配付している。学校においては児童生徒1人1人までの配布は難しい。

ただ、事業報告の中の参加者の声をみると、「何でこの行事を知りましたか。」という問いに対して、多くの割合でチラシやポスターを見たと挙げている。図書館だよりなどの紙媒体の重要性も非常に感じた。予算との兼ね合いもあり、すぐの取組みにはならないが、貴重な意見として伺わせていただく。

【事務局】

ギャラリーの露出展示の作品に関して、アクリルの被せるものをギャラリーでは全く準備していないので、貸出で展示してくださっている方々には非常に不便な時もあると思う。予算面で考えると、例えばA3サイズの立方体のアクリルカバーを1つ作ると、3万円ぐらいかかる。心配なところはあるが、引き続き安全に作品を守れるようにしていく。

【委員】

いろいろイベントを実施していて、本当にすごいと思う。うちの娘も新しい本のきろく通帳を非常に満足していて、図書館に行っては自分で機械に通帳を通して、自分のバックに入れて楽しそうにしている。

先ほどの話にあった本のお楽しみ袋だが、あれも親としてもとても楽しかった。お楽しみ袋の中に、かき氷のレシピのような本が入っていて、うちの娘もこういう本があるんだというのを初めて知ったようで、それからは図書館の料理コーナーにも行くようになった。最近では可愛い練り切りの本などを借りてきては、作ってくれと言っている。絵本以外の本があることを

新しく知ることができ、とてもありがたいと思っている。親としても、どうしても絵本コーナーで多くの時間をさきなかなか他のところに行けないので、本のお楽しみ袋のように本をまとめて借りられるのは、非常にありがたい。通年でやってほしいと思っている。

BMについて、巡回場所が増えているのでなかなか難しいと思うが、1つ要望を言わせていただくと、南部コミセンの近くに学童があるが、学童に子どもがいる時間に南部コミセンにBMが来てほしいと思っている。そうすることで、学童の子どもたちも本を借りることができるようになる。仕事をしていると土日にしか図書館には行けない。忙しいお母さんたちが増えてるので、平日の日中はなかなか図書館に行けない。親としては、なんとか子どもと本の接点を増やしてあげたいと思うので、BMで子どもたちが借りられるように、南部コミセンの巡回時間を変更していただけるとありがたい。

【委員】

先ほどお話しした子ども読書推進計画のアンケート調査を見て、やはり読書離れが進んでいるという印象を持っている。例えば、本が嫌いだ、とても嫌だというのが、市内の小学校6年生で25%いる。中学生になると、さらに多くなって35%。私が担任をしていた今から20年ほど前には、読書と言えば、ほぼ全員が大好きという答えだったと記憶している。また、大好きだとは言えなくとも、好きだと言う子がほとんどという印象を持っていたので、アンケート調査で嫌いだという子が25%や35%いるというのは非常に多いと感じている。原因は何か。先ほど申し上げたように、「読みたい本がない」とか、「何を読んでいいかわからない」という子どもも小学校で7.4%ぐらいいるのだが、もしかすると、本を読めないお子さんがその中にいるのではないかという不安を持っている。つまり何かと言うと、音読といった声に出して読むという学習活動が、昔から比べるとかなり減っているのが一因なのかもしれない。学習指導要領では活動を大事にしているので、読んで感想を表出するという方に比重が大きくなっているのでは、じっくり読むこと、つまりインプットがややもすると疎かになってきていることがあるのではないかと考えている。なので、小学校の国語の時間に音読をもっとさせてもいいのではないかと考えている。音読というと昔の教育のように思われて「新しい教育を知っているのか。」とお叱りを受けそうだが、楽しみながら声に出してすらすら読める快感というものを小学校の低学年あたりでスキルとしてしっかり身につけさせていかなければいけないと思っている。また、音読のさせ方についても、来年度に向けて工夫改善を図っていきたいと思っている。学校においては、小学校低学年の国語の授業や図書館教育などで少し工夫改善をしていきたいと考えている。

【委員】

本のきろく通帳が来年度の10周年記念事業に際し、希望する大人に抽選で配布することのだが、通帳を実費で欲しい人に販売できないものか。

【事務局】

本のきろく通帳そのものが信用金庫様から寄附いただいたもので、それを販売することは難しいところである。また仮に、有償で販売することで不足分が出るわけだが、その分を新たに作るための予算が確保できるかというところもなかなか難しい。

【委員】

来年度からナセBAの中で所管課が変わるという話を聞いている。図書館は変わらないようだが、予算面ではどのようになるか心配している。予算の有効活用などを検討していかなければならない大変な新年度になるのではないかと思っている。

【委員】

図書館では新聞で書評にあがった本を紹介していて、非常にありがたく思っているが、過去の書評を複製してアーカイブのようなものを作ることはできないか。

【事務局】

特集コーナーで新聞に掲載された情報を掲示する場合があるが、それらは複製ではなくて現物を切り抜いて掲示するようにしている。新聞の複製物を作るのは著作権の観点から難しい。

【委員】

先ほど話があった第3期子ども読書推進計画が今年度からスタートして、米沢市では「家読の日」というものを毎月第3日曜日に定めている。しかし、ほとんどの人は知らないと思う。ぜひ、来年度の事業計画の中で「家読の日」について告知してほしい。子どもたちが読みたい本が無い、何を読んだらいいかわからない、そういう課題を解決していけるような方策がないものか。私もなかなか具体的な策は浮かんでいないが、ぜひ来年度に向けて、図書館の方々にも考えていただきたい。また、ここにお集まりの委員の方々にも、ぜひ次回の会議ぐらいまでに、具体策について考えていただきたい。

【事務局】

「家読の日」については、図書館としても何か良い方策は無いか考えているところだが、ぜひ委員の皆様からも、関連したご意見を頂けるとありがたい。来年度は家読の推進についても取り組んでいきたいと思っている。

8. その他（特に発言なし）

9. 館長御礼

本日も、皆様から大変貴重なご意見をたくさんいただき感謝申し上げます。委員の皆様方のナセ BA を応援する、温かい言葉をたくさんいただき、私どもが気づかない点に関しても多岐にわたるご意見を頂戴でき、重ねて御礼申し上げます次第である。また、今回初めて膨大な事業報告を参考資料としてお送りしたが、お忙しい中目を通していただき大変ありがたかった。

昨年の秋に、図書館の職員全員に、「居心地の良い図書館とはどんな図書館をイメージするか。」という質問をしたところ、いろいろな意見がでた。例えば、蔵書数が豊富で必要な本を探しやすい図書館であるとか、施設設備が綺麗で整理整頓されているとか。あとは、何時間居ても誰からも何も言われない邪魔されない空間であるとか、静かに集中できる場所とか。半面、子どもの声があってもそれが嫌がられない空間など。これは 1 人 1 人の図書館職員が、そういう図書館でありたい、そういう図書館にしたいという気持ちの現れなのだと思う。実現がなかなか難しい点もあるが、工夫してやれるところもたくさんあるところを、職員の手紙から改めて感じたところである。

令和 8 年はナセ BA 開館 10 周年であり、ナセ BA 入館者 300 万人達成という節目の年でもある。これまでの 10 年間の取組を今後とも丁寧に進めるとともに、現状を踏まえた新たな視点、そして今日、皆様からいただいた貴重なご意見を受け、さらに私たちの目指すたくさんの方々から愛される、居心地の良い図書館、そしてナセ BA であるように、一層励んでまいりたい。委員の皆様には引き続きのご指導ご支援をお願いしたい。あわせて、いろいろなところで口コミでの宣伝をして頂けるとありがたい。

委員の皆様にはこの度の協議会への参加が任期としては最後の会になる。規約には再任は妨げないという言葉もあるので、来年度、委員再任のお願いなどさせて頂いた時にはぜひお引き受け頂けるとありがたい。2 年間、皆様には大変お世話になり、深く感謝申し上げます。